



世界で磨かれた響きへ
更なる高みへ

The "New York" Series

B^b Trumpet
YTR-9335NYS

C Trumpet
YTR-9445NYS-YS

C Trumpet
YTR-9445NYS-YM

The "Chicago" Series

B^b Trumpet
YTR-9335CHS

C Trumpet
YTR-9445CHS

※仕様および価格に関しては、予告なく変更する場合がございます。
※写真はYTR-9445NYS-YSです。
※商品にはイメージ画像は入っておりません。

Xeno
Artist Model

お問い合わせ

株式会社ヤマハミュージックジャパン
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
お客様コミュニケーションセンター管弦打ご相談窓口
ナビダイヤル: 0570-013-808
つながらない場合は053-411-4744へおかけください。
受付時間: 月~金 10:00-17:00
(土曜・日曜・祝日・センター指定休日を除く)

製品詳細については
Webにて→



ヤマハ管楽器
安心アフターサポート

※申込期間は、ご購入~1ヶ月以内



詳細はこちら

株式会社ヤマハミュージックジャパン

東京佼成ウインドオーケストラ

特別演奏会

2023 **3.16** THU 開演19:00

府中の森芸術劇場 どりーむホール



主催: 一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ

後援: 一般社団法人全日本吹奏楽連盟、東京都吹奏楽連盟、公益社団法人日本吹奏楽指導者協会、公益財団法人日本音楽教育文化振興会、一般社団法人日本管打・吹奏楽学会、一般社団法人日本吹奏楽普及協会、日本コロムビア株式会社、株式会社テレビマンユニオン、朝日新聞社

東京佼成ウインドオーケストラ事務局 TEL 03-5341-1155 <https://www.tkwo.jp/>



プログラム

プレトーク (水戸博之・畠田貴生・児玉隼人)

セドナ/S.ライニキー

大いなる約束の大地～チングス・ハーン／鈴木英史

シンフォニエッタ第3番「響きの森」／福島弘和(指揮:畠田貴生)

—休憩 Intermission 20分—

ラ・フォルム・ドゥ・シャク・アムール・
シジョンジュ・コム・ル・カレイドスコープ／天野正道

トランペット協奏曲／A.アルチュニアン／上埜孝 編 (トランペット:児玉隼人)

マードックからの最後の手紙(2021年版)／樽屋雅徳



東京佼成ウインドオーケストラ Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年(昭和35年)5月、立正佼成会附属の「佼成吹奏楽団」として発足、その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称した日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで幅広いレパートリーの演奏を通し高い音楽芸術性を創出し、多くの人々が楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。また多くのレコーディング、テレビ・ラジオに出演し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。2020年に楽団創立60周年を迎え、同年1月より大井剛史が正指揮者、トーマス・ザンデルリングが特別客演指揮者、飯森範親が首席客演指揮者、藤野浩一がポップス・ディレクターに就任。2022年4月より立正佼成会から独立し、一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラとして活動。



水戸 博之 Hiroyuki Mito, Conductor

1988年北海道江別市出身。東京音楽大学及び同大学大学院作曲指揮科(指揮)を修了後、広上淳一、パーヴォ・ヤルヴィ、川瀬賢太郎、山田和樹らのアシスタントを務め研鑽を積む。これまでに札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、中部フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、広島交響楽団などに客演。また合唱指揮者として東京混声合唱団や新国立劇場合唱団と共演を重ねる他、音楽スタッフとして新国立劇場、日生劇場、藤原歌劇団のオペラ公演に参加する。しまね県民オペラ2023《ラ・ボエーム》公演にて、オペラデビューを飾った。現在オーケストラトリプティック常任指揮者、東京混声合唱団コンダクターインレジデンス。

畠田 貴生 Takao Hatakeda, Conductor

1971年北海道出身。1993年早稲田大学理工学部卒業。1994年東海大学付属高輪台高等学校に理科の教員として勤務、吹奏楽部の指揮者に就任。2002年～2022年までに東海大学付属高輪台高等学校と東京隆生吹奏楽団の指揮者として、全日本吹奏楽コンクール全国大会に27回出場し、20回金賞を受賞した。2019年には全日本吹奏楽連盟より「長年出場指揮者」として表彰を受ける。なにわ《オーケストラ》ウィーンズの客演指揮者や、ウィーン楽友協会ホールをはじめとする、海外ホールでの演奏会に指揮者として出演。現在、全日本高等学校吹奏楽連盟常任理事、21世紀の吹奏楽「響宴」会員。



児玉 隼人 Hayato Kodama, Trumpet



2009年北海道釧路市生まれの13歳。

5歳のクリスマスプレゼントにもらったホルネットをおもちゃ代わりに吹き始める。

これまでに、トランペットラブラターコンテスト特別賞、日本ジュニア管打楽器コンクール金賞、日本クラシック音楽コンクール第1位及びグランプリ、下田国際音楽コンクール金賞及び大賞、大阪国際音楽コンクール第1位及び文部科学大臣賞など数々のコンクールで最高位を受賞。小学6年生で開催した銀座ヤマハホールでのソロリサイタルは大きな注目を集め、様々なメディアでも取り上げられた。これまで世界的トランペット奏者のラインホルト・フリードリヒ、イェルーン・ベルワルツのレッスンを受講。トランペットを元札幌交響楽団の松田次史氏に師事。

- ・本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合がございます。および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承ください。
- ・ホール内での、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- ・携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- ・演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますのでご配慮ください。

本公演に関するアンケートへご協力ください



Program notes

曲目解説 富樫鉄火 (音楽ライター)

◆セドナ/S.ライニキー

アメリカ南西部、アリゾナ州のセドナ市は、赤い巨岩に囲まれた砂漠の大自然で知られてきたが、いまではパワー・スポットとして、世界中から観光客が詰めかけている(大地が発する磁気が強く、脳波が刺激されるのだとか)。

「セドナ」とは、女性名。先住民族の聖地だったこの地に最初に入植した白人の郵便局長夫人の名前だそうである。ちなみに、主題歌《ジョニー・ギター》の大ヒットで知られる西部劇映画『大砂塵』(1954)がここセドナでロケ撮影されており、観光地化される前の、独特な風景を見ることができる。

この地のイメージを音楽化したのが、本曲。急〜緩〜急の三部構成で、雄大な自然がスピーディーに描かれる。オハイオ州ケッターリング市民バンドの委嘱で、2000年に初演された。小編成でも演奏可能で、演奏難度も中レベルなので、日本でも小中学校でさかんに演奏されている。コンクールでは、支部大会以下や、小編成部門の大人気曲である。

作曲者、スティーヴン・ライニキー(1970〜)は、アメリカの作編曲家、指揮者。主にポップス・オーケストラで活躍しており、シンシナティ・ポップスや、ニューヨーク・ポップスで編曲・指揮をつとめている。その一方で、主にスクール・バンド向けの明朗な吹奏楽曲を多く発表しており、本曲のほかにも《ホープタウンの休日》《驚の舞うところ》などに人気がある。【約6分】

◆大いなる約束の大地〜チングス・ハーン/鈴木英史

リヴィエール吹奏楽団(東京)と三重県立上野高校吹奏楽部の共同委嘱により作曲され、2007年4月に両団体が個別に初演した。モンゴル帝国の英雄、初代皇帝チングス・ハーン(13世紀)は、今の中国から東欧に至る壮大なエリアを支配し、人類史上最大の帝国をつくり上げた。そのイメージをもとに、モンゴル(東洋)と西洋の「出会い」を音楽で描いたユニークな曲。

冒頭はフルート・ソロで始まり、草原の民族儀式を思わせる野性的な曲想が展開する。この部分は、日本の「長唄」のイメージだという。やがてマーチを思わせるスピーディーな展開となり、ピッコロ・ソロが独特のモンゴル民謡を奏する。これは「オルティンドー」(長い歌)と呼ばれる民族音楽で、日本の「追分」「馬子唄」のルーツともいわれている(ユネスコ無形文化遺産に指定)。後段はそれらが合体し、壮大な幻想ファンタジーを思わせるクライマックスへなだれ込む。

コンクールでは、2007年度に上記リヴィエール吹奏楽団が全国大会初演(銀賞)、以後計11回登場の人気曲となっている。オリジナルは大型編成向きに書かれているが(たとえば、トランペットI〜IIIのほかにはフルーゲル・ホーンI・II必要)、あまりの人気に、その後、20人程度でも演奏できる小編成版が出版されている。なお本曲は、2009年「週刊少年マガジン」連載の漫画『暴走系吹奏楽列伝 ブラボー! Brass Boy』(鶴ゆみか)において、コンクール全国大会を目指す自由曲として登場し、話題となった。

作曲者、鈴木英史(1965〜)は、東京藝術大学大学院出身。《カントゥス・ソナーレ》《鳳凰〜仁愛鳥譜》や、2022年度の全日本吹奏楽コンクール課題曲《ジェネシス》などのほか、多くのオペラ、オペレッタなどのダイジェスト編曲でも知られている。【約8分半】

◆シンフォニエッタ第3番「響きの森」/福島弘和

2018年、東海大学付属高輪台高校吹奏楽部の委嘱により作曲され、同年度コンクール全国大会初演(金賞)、以後、早くも計8回登場の人気曲となっている。

副題《響きの森》は、作曲者自身のコメントによれば、「どこかの「森」を表現した訳ではなく、「音と音が響き合う様子が、木と木が生い茂って森のように聞こえる」と思い付けさせていただきました)とのこと。

冒頭から、細かいフレーズが続出し、まさしく深い「森」を思わせる曲想が壮大に展開する。以後、多くの旋律が絡み合いながら、壮大な音楽に発展していく。

作曲者、福島弘和(1971〜)は、東京音楽大学出身。いまでも人気のある、かつ多忙な作編曲家のひとり。史実や文学など幅広い素材を音楽化しており、《ラッキードラゴン〜第五福竜丸の記憶》、シンフォニエッタ第2番《祈りの鐘》、《吹奏楽のための交響的断章》などに人気がある。コンクール課題曲も、《稲穂の波》(1998年度、公募)、《道祖神の詩》(2000年度、公募/朝日作曲賞受賞)、行進曲《春》(2019年度、委嘱)と3曲書いている。

なお本曲は、本来、約10分の曲だが、本日は、作曲者指定によるカット・ヴァージョンで演奏される。指揮は、委嘱元でもある、東海大学付属高輪台高校吹奏楽部の畠田貴生氏による。

また、この《シンフォニエッタ》シリーズは、現在、第5番まで発表されている。第4番《憶いの刻》、第5番《火焰の鳥》も同団体の委嘱・初演であり、第5番はコンクール全国大会で金賞を受賞している。【約8分】

◆ラ・フォルム・ドウ・シャク・アムール・シヨンジュ・コム・ル・カレイドスコープ

天野正道

創価グローリア吹奏楽団(東京)の委嘱により、2003年2月に、佐川聖二氏の指揮で初演された。ひきつづき同年度のコンクールで、同楽団が全国大会初演(金賞)。以後、計8回登場の人気曲となっている。

作曲者のコメントによれば、(委嘱の際の注文は)「愛」でした。人類愛、親子の愛、男女の愛、屈折した愛、普遍的な愛、などなど「愛」には色々な形があるのでしょう。その、それぞれの愛のかたちが万華鏡のごとく変化する事もあるのかもしれません)とのことで、曲名はフランス語で、直訳すると「各々の愛の形は万華鏡(カレイドスコープ)のように変化する」の意味。

たしかにそのとおりで、シンプルなフレーズが次第にロマンティックに発展し、様々な形に変容しながら雄大な音楽を構成していく。まさに眼前を巨大な何かうねりながら通過していくような、優雅さと迫力とを兼ね備えた見事な楽曲である。

その後、2016年に、委嘱元から改訂を求められ、《ヴァージョン・リミックス・パ・ラ・フォルム・ドウ・シャク・アムール・シヨンジュ・コム・ル・カレイドスコープ》なる、「再創造曲」も書かれている。

作曲者、天野正道(1957〜)は、国立音楽大学出身。多くのアニメーション、映画音楽などで活躍しているが、吹奏楽の作編曲も膨大で、コンクールでは、本曲のほか、《GR》〜シンフォニック・セレクション、《カプレーティとモンテッキ〜「ロメオとジュリエット」その愛と死〜》《シネマ・シメリック》などに人気がある。また、三善晃、矢代秋雄、黛敏郎といった日本の作曲家の作品の吹奏楽編曲でも知られている。亡くなった岩井直博の後任として、「ニュー・サウンズ・イン・プラス」シリーズの編曲・指揮も担当している。

なお本曲は、オリジナル版は13分前後の曲だが、コンクールなどでは、演奏時間の関係で一部をカットし、8分前後で演奏されることが多い。本日は、オリジナル版のノー・カット演奏である。【約13分】

◆トランペット協奏曲/A.アルチュニアン/上笠孝編

作曲者、アレクサンドル・アルチュニアン(1920〜2012)は、アルメニア(旧ソ連)出身の作曲家。モスクワ音楽院に学び、母国アルメニアにもどって、作曲・教育活動をおこなった。アルメニアの民族音楽に基づいた、管楽器のための曲が多い。

本日の《トランペット協奏曲》は、彼の代表作のひとつ。当初、友人でもあったアルメニア・フィルハーモニーの首席トランペット奏者、ジョラク・ヴァルタサリヤンのために書いていたが、当人が第2次世界大戦で戦死してしまう。意気消沈したアルチュニアンは、曲を未完成のまま放置していたが、戦後になって作曲を再開。1950年に完成した。初演はモスクワで、アイカズ・メシヤンによっておこなわれたが、その後、名トランペット奏者、ティモフェイ・ドクシツェル(1921〜2005)が見事なカデンツァを加えた録音を発表し、世界中に知られることになった。

全体にアルメニア民謡を思わせるメロディが多く登場する。吹奏楽ファンにとっては、アルフレッド・リードの《アルメニア・ダンス》でおなじみの曲想。特に、アルメニアの吟遊詩人が奏でた民族音楽「アシュグ」のイメージが取り入れられている(ただし、アルチュニアン自身は「アルメニア民謡そのものは引用していない」と述べている)。

曲は3楽章構成だが、つづけて演奏され、単一楽章のような印象を受ける。

I : Andante — Allegro energico

II : Meno mosso

III : Tempo I

劇的な序奏で幕を開け、軽快なダンスへ。ロマンティックな曲想を経て、ミュートによるタンゴ風の中央部などが交錯しながら、クライマックスのカデンツァへ突入する。

高度なテクニックを要求される一方、一度聴いたら忘れがたい、独特な旋律に彩られた名曲で、いまでは、世界中のトランペット奏者に愛され、かつ、コンクールや試験などの課題曲としても知られている。

本日は、駒澤大学吹奏楽部の指導者として長年活躍した上笠孝氏(1934〜2013)による編曲スコアで演奏される。ソロは、いま話題の「13歳」の名トランペット奏者、児玉隼人氏である。【約16分】

◆マードックからの最後の手紙(2021年版) / 樽屋雅徳

1912年4月、処女航海中の豪華客船「タイタニック」号が、北大西洋で氷山に衝突し、沈没した。乗員乗客約2200人中、1500人余が亡くなった。このとき、一等航海士ウィリアム・マクマスター・マードック(1873~1912)は、右舷救命ボートを担当し、最後まで乗客の脱出に尽力し、そのまま海に沈んでいった(余談だが、1997年の映画『タイタニック』で、マードックは、乗客を射殺して自殺する設定に脚色され、大批判が巻き起こった。後日、制作会社幹部が、遺族に謝罪した)。

そのマードックが、寄港地から家族にあてた手紙で、最後の航海の様子を伝えていたとの設定を音楽化したのが、本曲。アイリッシュを思わせる哀愁の曲想ではじまり、軽快な船旅、海難事故の様相などが、まさに「手紙」をつづるように、ドラマティックに描かれる。

オリジナルは、2009年5月、土気シビックウインドオーケストラ(千葉)の委嘱で作曲され、同団が演奏収録したCDが初演(加養浩幸指揮)。これが契機で、一挙に爆発的な人気曲となり、2010年に花咲徳栄高校吹奏楽部(埼玉)の委嘱によりコンクール向けに改訂。2015年には小編成版も出版された。

ところが、これほど日本で演奏され、コンクールでも支部大会以下では膨大な数の団体が演奏しているにもかかわらず、本曲で全国大会までたどり着く団体は、2020年度までゼロだった。

そうしたところ、2021年度のコンクールで、玉名女子高校吹奏楽部(熊本)が、新たに加筆された改訂版でついに全国大会初演を果たし、見事に金賞を受賞した。実に最初の作曲から12年余がたった。

本日は、この最終版ともいえる「2021年版」で演奏される。なお、この「2021年版」は、2パターンのエンディングが用意されているが、本日は、加筆されたBパターンではなく、オリジナルどおりのAパターンで演奏される。原典版の響きを尊重しながら、随所に高度な技巧が盛り込まれ、華やかな楽曲に生まれ変わっている。

作曲家、樽屋雅徳(1978~)は武蔵野音楽大学出身。毎年、話題作を発表しており、近年では《Crossfire—November 22》《キリストの復活—ゲツセマネの祈り—》《眠るヴィシユの木》などに人気がある。【約8分】

〈一部敬称略〉



“Bach for Professional”

バックを手にするよろこび。それは品位、伝統、風格。



奥山 泰三
AB190GL

本間 千也
AB190GBSP

TOKYO KOSEI WIND ORCHESTRA

東京佼成ウインドオーケストラ

ガルシア 安藤 真美子
180ML37SP

河原 史弥
180ML37SP

PHOTO by Masanori DOI

NONAKA

いい楽器をあなたのもとへ

総発売元 株式会社ノナカ 総輸入元・製造元 野中貿易株式会社 231-0011 横浜市中区太田町4-46 www.nonaka.com



演奏者名簿 *bers*

桂冠指揮者…………… フレデリック・フェネル
 正指揮者…………… 大井剛史
 特別客演指揮者…………… トーマス・ザンデルリンク
 首席客演指揮者…………… 飯森範親
 ポップス・ディレクター …… 藤野浩一

指揮…………… 水戸博之
 ゲスト…………… 畠田貴生(指揮)、児玉隼人(トランペット)
 演奏 …… 東京佼成ウインドオーケストラ

Piccolo …… 丸田悠太	Trumpets …… 奥山泰三、ガルシア安藤真美子 本間千也*、小貫貴、川村大
Flutes …… 前田綾子、白石法久、山内豊瑞	Horns …… 堀風翔*、小助川大河、阿部華苗、 鈴木希恵、端山隆太
Oboes …… 上原朋子、藤本茉奈美	Tenor Trombones …… 今村岳志*、上田智美、村田秀文
English Horn …… 船津美雪	Bass Trombone …… 佐藤敬一朗
Bassoons …… 福井弘康、栗林愛理	Euphoniums …… 若黒綾乃、齋藤充
Clarinet in E♭ …… 松生知子	Tubas …… 池田侑太、次田心平
Clarinet in B♭ …… 大浦綾子、林 裕子、粟生田直樹、 井上朋実、草野裕輝、竹内未緒、 野田祐太郎、福井萌、藪田果林	Contrabass …… 前田芳彰*
Alto Clarinet …… 瀧本千晶	Timpani …… 幸多俊
Bass Clarinet …… 塚本啓理	Percussion …… 秋田孝訓、和田光世*、久米彩音、 腰野真那、市東章代、野本洋介、 前田啓太、村居勲
Contra Bass Clarinet …… 原浩介(Contra Alto Clarinet)	Harp …… 神谷朝子
Soprano Saxophone …… 田中靖人(Alto Saxophone)*	Piano …… 田中翔一朗
Alto Saxophones …… 金野龍篤、完戸吉由希、 蒙和雅(Baritone Saxophone)	
Tenor Saxophone …… 松井宏幸	
Baritone Saxophone …… 西尾貴浩	(※=演奏委員)

コンサートマスター	役員		
田中靖人	理事長…………… 勝川本久	理事…………… 井小萩浩之	
	専務理事…………… 堀風翔	監事…………… 清水宏一	
副コンサートマスター	事務局		
太田友香	事務局長…………… 勝川本久	広報…………… 尾崎真也	総務…………… 尾崎真也
	インスペクター…………… 井小萩浩之	萩沼美帆(チケットサービス)	佐原由起
尾尾克樹、丸田悠太、今村岳志	制作		
	篠原華	賛助会・サポーターズクラブ…………… 萩沼美帆	経理…………… 水本孝枝
企画委員	岩崎友香(パーソナルマネージャー)	大橋証太(ステージマネージャー)	
原浩介	羽田紀子(ライブラリアン)	尾崎真也	
		佐原由起	